



## 2025年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年5月14日

上場会社名 株式会社一家ホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 7127 URL https://ikka-holdings.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 武長太郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 高橋広宜 (TEL) 047-711-0850  
 定時株主総会開催予定日 2025年6月24日 配当支払開始予定日 —  
 有価証券報告書提出予定日 2025年6月24日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年3月期の連結業績(2024年4月1日~2025年3月31日)

## (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期	10,089	9.3	△74	—	△100	—	△172	—
2024年3月期	9,232	10.2	227	36.6	219	67.0	78	△1.3

(注) 包括利益 2025年3月期 △179百万円(—%) 2024年3月期 108百万円(26.3%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2025年3月期	△24.16	—	△18.2	△1.8	△0.7
2024年3月期	11.12	10.79	8.1	4.3	2.5

(参考) 持分法投資損益 2025年3月期 -百万円 2024年3月期 -百万円

(注) 2025年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期	5,709	897	15.1	121.20
2024年3月期	5,380	1,063	19.2	145.03

(参考) 自己資本 2025年3月期 864百万円 2024年3月期 1,031百万円

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2025年3月期	182	△670	356	1,339
2024年3月期	537	△417	269	1,471

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

## 3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり当期純 利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	11,629	15.3	320	—	286	—	179	—	25.14

(注) 当社は年次での業績管理を行っておりますので、第2四半期(累計)の業績予想の記載を省略しております。

※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更 : 有  
新規 1社(社名) 株式会社一家レジャーサービス、除外 1社(社名)ー

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期	7,134,800株	2024年3月期	7,115,700株
② 期末自己株式数	2025年3月期	一株	2024年3月期	一株
③ 期中平均株式数	2025年3月期	7,127,997株	2024年3月期	7,104,273株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通しに関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではなく、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 連結貸借対照表 .....	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	7
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(セグメント情報等) .....	12
(1株当たり情報) .....	15
(重要な後発事象) .....	15

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

文中の将来に関する事項は、当連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、依然として原材料費・エネルギーコストの高騰、円安進行などの影響が長期化しているほか、米国による世界各国への大規模な関税政策の発動による世界経済への影響など、未だ景気の先行きは極めて不透明な状況が続いております。

外食業界におきましては、アフターコロナにおける経済活動の正常化が進み、インバウンド需要も回復基調である一方、原材料費・光熱費等の高騰や人材不足及び採用コストの増加など、依然として厳しい状況が続いております。このような状況の中、当社グループは、『あらゆる人の幸せに関わる日本一のおもてなし集団』というグループミッションのもと、より多くのお客様におもてなしによって感動を提供するために、優秀な人材の確保及びサービス力向上、各ブランドのブランド力向上に注力してまいりました。

飲食事業においては、新規出店、既存店のサービス力向上及び店舗オペレーションの改善、各業態における自社アプリなどの会員獲得によるリピーター客数の増加に継続して注力してまいりました。

新規出店に関しては、ドミナントエリアへの新規出店（屋台屋博多劇場 浦和店・中野店・所沢店、大衆ジンギスカン酒場 ラムちゃん武蔵浦和店・越谷レイクタウン店、こだわりもん一家 本八幡店、寿司トおでん へのや 日本橋店、寿司ト焼きもん へのや はなれ）、バーベキュー・ビアガーデン業態の新規出店（THE SKY RESORT BBQ SOGO OMIYA、京王スカイビアガーデン）及び肉のウエキ業態の新規出店2店舗（肉のウエキ東京ドームグルメストリート ポップアップ・ショップ（2024年6月4日から8月14日までの期間限定）・肉のウエキ代々木店）のほか、一家レジャーサービスとして初出店となるTHE RIVERSIDE BBQ NISHIKASAIを新規出店し、2025年3月末日で4店舗（屋台屋博多劇場 茂原店、韓国屋台ハンサム 本川越店・汐留店・渋谷店（汐留店・渋谷店はそれぞれのへのや、屋台屋博多劇場へ業態変更予定。））を退店したことにより、当連結会計年度末時点での直営店は、2025年3月末日で退店した4店舗を含め合計で92店舗となりました。

既存店（屋台屋博多劇場業態・こだわりもん一家業態・大衆ジンギスカン酒場ラムちゃん業態・へのや業態・韓国屋台ハンサム業態）客数は前年同期比2.0%減で推移した一方、既存店客単価は前年同期比2.1%増で推移し、既存店売上高は前年同期比0.1%増となりました。

しかしながら、今夏の記録的猛暑の長期化などの天候不順が大きく影響し、客数が想定より伸び悩み、それにより人件費率が上昇したことに加え、原材料費高騰による原価率の上昇が利益を圧迫し、営業利益は前年同期比で減益となりました。

ブライダル事業においては、近年、ブライダル市場全体で結婚式のニーズの多様化により少人数婚のニーズが高まり、婚礼1組当たりの組人数が減少傾向にある中、婚礼の主力広告媒体との連携強化、SNSを活用したブランディング強化による来館数・成約率の向上、サービス力向上及びコスト削減、宴席の新規案件の取り込み及びリピート客数の増加、レストランのサービス力、商品力の向上及び新規客数の増加にも継続して注力してまいりました。

婚礼の組人数・組単価については、大人数での挙式ニーズが回復してきたことにより、前年同期比で増加し好調に推移いたしました。また、前期は6月5日から9月8日まで婚礼施設「The Place of Tokyo」を大型リニューアルのため、全館休業しておりましたが当期は全館通常営業しており、婚礼・宴席の施行件数及びレストランの客数は前年同期比で増加いたしました。その結果、売上高は前年同期比で増加いたしました。

一方で、リニューアル後の人的リソースの増強による人件費及び外部販促強化による広告宣伝費の上昇のほか、当期は全館通常営業したことにより各種販売費及び一般管理費が前年同期比で上昇したことにより営業利益は前年同期比で減益となりました。

また、2024年4月15日にレジャー事業の運営を主な目的とする子会社である株式会社一家レジャーサービスを設立し、当連結会計年度より同社を連結の範囲に含め、新たにレジャー事業として報告セグメントに追加しております。レジャー事業においては、今後のレジャー施設の展開、運営のための調査研究等に先行して投資いたしました。

その他、飲食事業における店舗資産に係る140,939千円の減損損失を特別損失に計上、繰延税金資産の計上に伴い65,862千円の法人税等調整額（益）を計上いたしました。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は10,089,884千円（前年同期比9.3%増）、営業損失は74,556千円（前年同期は営業利益227,926千円）、経常損失は100,204千円（前年同期は経常利益219,359千円）、親会社株主に帰属する当期純損失は172,203千円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純利益78,995千円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 飲食事業

売上高は8,138,646千円（前年同期比6.6%増）、セグメント利益（営業利益）は55,092千円（前年同期比84.0%減）となりました。

② ブライダル事業

売上高は1,946,834千円（前年同期比21.9%増）、セグメント損失（営業損失）は131,280千円（前年同期のセグメント損失（営業損失）は139,624千円）となりました。

③ レジャー事業

売上高は3,053千円、セグメント損失（営業損失）は27,038千円となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(総資産)

当連結会計年度末における総資産は、現金及び預金が124,698千円減少したものの、売掛金が62,428千円、新規出店等に伴い有形固定資産が151,532千円、敷金及び保証金が63,144円増加したことなどにより、5,709,912千円（前連結会計年度末比329,028千円の増加）となりました。

(負債)

当連結会計年度末における負債は、1年内返済予定の長期借入金が136,315千円減少したものの、未払金が82,389千円、長期借入金が521,156千円増加したことなどにより、4,812,841千円（前連結会計年度末比494,993千円の増加）となりました。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産は、その他有価証券評価差額金が8,344千円、親会社株主に帰属する当期純損失の計上に伴い利益剰余金が172,203千円減少したことなどにより、897,070千円（前連結会計年度末比165,965千円の減少）となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物の期末残高は1,339,166千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは182,585千円の収入となりました。主な増加要因は、減価償却費265,938千円、長期前払費用償却額38,368千円、減損損失140,939千円などの計上、仕入債務の増加額21,484千円、未払金の増加額73,232千円などであり、主な減少要因は、税金等調整前当期純損失224,332千円の計上、売上債権の増加額62,428千円、その他の資産の増加額42,581千円、その他の負債の減少額37,363千円などであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは670,605千円の支出となりました。主な増加要因は、有形固定資産の売却による収入23,178千円などであり、主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出501,186千円、投資有価証券の取得による支出60,792千円、差入保証金の差入による支出69,731千円、その他の支出51,485千円などであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは356,120千円の収入となりました。主な増加要因は、長期借入れによる収入1,547,900千円であり、主な減少要因は、長期借入金の返済による支出1,163,059千円などです。

## (4) 今後の見通し

新型コロナウイルス感染症の影響も弱まり、インバウンド需要も急激に回復するなど、さらなる経済活動の回復が期待される一方、円安基調の長期化、ロシア・ウクライナ情勢やエネルギーコストや原材料の高騰の長期化などによりわが国経済は、依然として不透明な状況が続いております。

その他、物価上昇に伴う賃金上昇による人件費の上昇や、さらなる人材不足の深刻化による採用・教育コストの増加など厳しい経営環境が続いております。

当社におきましては、中長期的に『あらゆる人の幸せに関わる日本一のおもてなし集団』というグループミッションのもと、より多くのお客様におもてなしによって感動を提供する為に、引き続き事業の拡大、優秀な人材の確保及びサービス力・商品力向上に注力してまいります。

飲食事業の新規出店につきましては、引き続き既存業態の出店による主力ブランドの認知向上、ブランド力向上に加え、トレンドのニーズに対応した新規業態開発を継続して行ってまいります。また、自社アプリによる会員獲得、会員企画のブラッシュアップによりリピーターの増加に注力し、さらに、店舗オペレーションの改善による経営の更なる効率化を図り、売上及び利益の拡大を図ってまいります。

ブライダル事業におきましては、ブライダル施設「The Place of Tokyo」の更なるブランド価値の向上を図るとともに、引続き主力広告媒体との連携強化による来館数・成約率の向上、サービス力向上及びコスト削減、宴席の新規案件取り込み及びリピート客数の増加、レストランのサービス力向上・商品力向上に注力し売上及び利益拡大を図ってまいります。

レジャー事業におきましては、バーベキュー・ビアガーデン業態の店舗運営及び2025年11月開業予定の茨城県植物園及び茨城県民の森のリニューアル事業であるレジャー施設【THE BOTANICAL RESORT「林音」】の運営に注力してまいります。

また、社内教育体制の強化により、おもてなし力の高い人材の育成に注力しながら、計画的に人材を確保し労働環境の整備を進めてまいります。

以上のことから、2026年3月期の連結業績予想につきましては、売上高11,629,495千円（前年同期比15.3%増）、営業利益320,847千円（前年同期は営業損失74,556千円）、経常利益286,465千円（前年同期は経常損失100,204千円）、親会社株主に帰属する当期純利益179,377千円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失172,203千円）の増収増益を見込んでおります。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは日本基準を適用しております。なお、IFRSの適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,579,354	1,454,656
売掛金	304,477	366,906
その他	198,281	250,457
貸倒引当金	△236	△287
流動資産合計	2,081,877	2,071,732
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,422,939	2,659,631
減価償却累計額	△886,820	△1,014,041
建物及び構築物(純額)	1,536,119	1,645,590
工具、器具及び備品	736,457	864,641
減価償却累計額	△595,767	△678,699
工具、器具及び備品(純額)	140,690	185,942
土地	4,956	-
リース資産	128,443	168,636
減価償却累計額	△18,991	△47,841
リース資産(純額)	109,452	120,794
建設仮勘定	10,912	1,336
有形固定資産合計	1,802,130	1,953,663
無形固定資産		
のれん	4,203	2,801
その他	2,508	16,984
無形固定資産合計	6,711	19,786
投資その他の資産		
投資有価証券	139,714	188,799
長期貸付金	738	648
関係会社長期貸付金	38,810	34,010
敷金及び保証金	798,896	862,040
繰延税金資産	315,640	384,383
その他	196,364	194,847
投資その他の資産合計	1,490,164	1,664,730
固定資産合計	3,299,006	3,638,179
資産合計	5,380,884	5,709,912



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	254,355	275,839
1年内返済予定の長期借入金	956,605	820,290
未払金	429,410	511,799
未払法人税等	2,499	11,515
資産除去債務	-	4,096
その他	278,744	245,896
流動負債合計	1,921,614	1,869,437
固定負債		
長期借入金	1,946,510	2,467,666
リース債務	92,671	99,095
資産除去債務	295,222	317,195
その他	61,829	59,446
固定負債合計	2,396,233	2,943,403
負債合計	4,317,847	4,812,841
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	35,838	42,494
資本剰余金	1,203,011	1,209,667
利益剰余金	△238,492	△410,696
株主資本合計	1,000,356	841,465
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,597	23,253
その他の包括利益累計額合計	31,597	23,253
新株予約権	22,555	22,555
非支配株主持分	8,526	9,796
純資産合計	1,063,036	897,070
負債純資産合計	5,380,884	5,709,912



## (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

## 連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
売上高	9,232,639	10,089,884
売上原価	3,102,366	3,411,312
売上総利益	6,130,272	6,678,571
販売費及び一般管理費	5,902,346	6,753,127
営業利益又は営業損失(△)	227,926	△74,556
営業外収益		
受取利息	221	1,201
受取手数料	1,224	1,173
助成金収入	6,359	3,850
利子補給金	2,936	1,567
その他	2,342	2,841
営業外収益合計	13,083	10,634
営業外費用		
支払利息	17,934	33,110
その他	3,716	3,172
営業外費用合計	21,650	36,282
経常利益又は経常損失(△)	219,359	△100,204
特別利益		
保険差益	-	16,811
特別利益合計	-	16,811
特別損失		
減損損失	78,484	140,939
特別損失合計	78,484	140,939
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	140,874	△224,332
法人税、住民税及び事業税	12,594	12,463
法人税等調整額	48,429	△65,862
法人税等合計	61,023	△53,398
当期純利益又は当期純損失(△)	79,850	△170,933
非支配株主に帰属する当期純利益	855	1,269
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	78,995	△172,203

## 連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
当期純利益又は当期純損失 (△)	79,850	△170,933
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28,225	△8,344
その他の包括利益合計	28,225	△8,344
包括利益	108,075	△179,278
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	107,220	△180,548
非支配株主に係る包括利益	855	1,269

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	172,149	1,055,024	△317,487	909,685
当期変動額				
新株の発行	5,838	5,838		11,676
減資	△142,149	142,149		-
親会社株主に帰属する 当期純利益			78,995	78,995
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	△136,311	147,987	78,995	90,671
当期末残高	35,838	1,203,011	△238,492	1,000,356

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配 株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	3,372	3,372	16,916	7,670	937,645
当期変動額					
新株の発行					11,676
減資					-
親会社株主に帰属する 当期純利益					78,995
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	28,225	28,225	5,638	855	34,719
当期変動額合計	28,225	28,225	5,638	855	125,390
当期末残高	31,597	31,597	22,555	8,526	1,063,036

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	35,838	1,203,011	△238,492	1,000,356
当期変動額				
新株の発行	6,656	6,656		13,312
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)			△172,203	△172,203
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	6,656	6,656	△172,203	△158,891
当期末残高	42,494	1,209,667	△410,696	841,465

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配 株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	31,597	31,597	22,555	8,526	1,063,036
当期変動額					
新株の発行					13,312
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)					△172,203
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	△8,344	△8,344	-	1,269	△7,074
当期変動額合計	△8,344	△8,344	-	1,269	△165,965
当期末残高	23,253	23,253	22,555	9,796	897,070

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	140,874	△224,332
減価償却費	249,678	265,938
長期前払費用償却額	37,382	38,368
減損損失	78,484	140,939
のれん償却額	1,401	1,401
貸倒引当金の増減額(△は減少)	92	50
支払利息	17,934	33,110
保険差益	-	△16,811
助成金収入	△6,359	△3,850
売上債権の増減額(△は増加)	△43,863	△62,428
仕入債務の増減額(△は減少)	17,010	21,484
未払金の増減額(△は減少)	61,448	73,232
その他の資産の増減額(△は増加)	△7,553	△42,581
その他の負債の増減額(△は減少)	19,958	△37,363
その他	4,996	6,097
小計	571,486	193,255
利息の支払額	△18,884	△34,513
保険金の受取額	-	22,044
助成金の受取額	6,359	3,850
補償金の受取額	3,821	-
法人税等の支払額	△26,367	△3,366
その他	606	1,315
営業活動によるキャッシュ・フロー	537,020	182,585
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△311,038	△501,186
有形固定資産の売却による収入	-	23,178
投資有価証券の取得による支出	△60,792	△60,792
無形固定資産の取得による支出	-	△15,689
資産除去債務の履行による支出	△9,220	-
差入保証金の差入による支出	△17,937	△69,731
差入保証金の回収による収入	34,111	5,101
その他	△53,024	△51,485
投資活動によるキャッシュ・フロー	△417,901	△670,605
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	1,180,000	1,547,900
長期借入金の返済による支出	△894,153	△1,163,059
その他	△16,076	△28,720
財務活動によるキャッシュ・フロー	269,770	356,120
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	388,889	△131,899
現金及び現金同等物の期首残高	1,082,176	1,471,066
現金及び現金同等物の期末残高	1,471,066	1,339,166

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

## 1 報告セグメントの概要

## (1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に事業本部を置き、各事業本部は取り扱う商品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは事業本部を基礎としたセグメントから構成されており、「飲食事業」、「ブライダル事業」及び「レジャー事業」の3つを報告セグメントとしております。

## (2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「飲食事業」は、主に当社グループが企画・業態開発した居酒屋・レストランなどの飲食店の直営店の運営を行っております。

「ブライダル事業」は、主に結婚式の企画・施行、ブライダル施設の運営を行っております。

「レジャー事業」は、主にバーベキュー場などのレジャー施設の運営を行っております。

## (3) 報告セグメントの変更等に関する事項

2024年4月15日に株式会社一家レジャーサービスを設立し、連結の範囲に含めたことに伴い、報告セグメント「レジャー事業」を新たに追加しております。

## 2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表の作成において採用している会計処理の方法と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント資産及び負債については、取締役会に対して定期的に提供されておらず、経営資源の配分決定及び業績評価の検討対象となっていないため記載しておりません。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報  
前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計
	飲食事業	ブライダル事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	7,636,105	1,596,533	9,232,639	—	9,232,639
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	7,636,105	1,596,533	9,232,639	—	9,232,639
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,636,105	1,596,533	9,232,639	—	9,232,639
セグメント利益又は損失(△) (注) 2	344,417	△139,624	204,793	23,132	227,926

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計
	飲食事業	ブライダル事業	計		
その他の項目					
減価償却費	221,727	18,532	240,259	9,418	249,678
のれんの償却額	1,401	—	1,401	—	1,401
減損損失	66,891	—	66,891	11,593	78,484
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	286,015	99,401	385,417	70,407	455,825

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失の調整額は、全社収益及び全社費用が含まれております。全社収益はグループ会社からの経営指導料等であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。
  - (2) 減価償却費、減損損失、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、報告セグメントに帰属しない全社資産に関するものであり、主に親会社の本社管理部門に係る資産の減価償却費、減損損失、有形固定資産及び無形固定資産の増加額であります。
2. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	合計
	飲食事業	ブライダル事業	レジャー事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	8,138,646	1,946,834	3,053	10,088,534	1,350	10,089,884
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	8,138,646	1,946,834	3,053	10,088,534	1,350	10,089,884
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	8,138,646	1,946,834	3,053	10,088,534	1,350	10,089,884
セグメント利益又は損 失(△) (注) 2	55,092	△131,280	△27,038	△103,225	28,669	△74,556
その他の項目						
減価償却費	232,599	23,624	1,703	257,927	8,011	265,938
のれんの償却額	1,401	—	—	1,401	—	1,401
減損損失	140,939	—	—	140,939	—	140,939
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	528,693	8,976	42,936	580,606	12,057	592,664

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失の調整額は、全社収益及び全社費用が含まれております。全社収益はグループ会社からの経営指導料等であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。
  - (2) 減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、報告セグメントに帰属しない全社資産に関するものであり、主に親会社の本社管理部門に係る資産の減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額であります。
2. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

#### 【関連情報】

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

#### 1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

#### 2 地域ごとの情報

##### (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。



(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	全社・消去	合計
	飲食事業	ブライダル事業	計			
当期末残高	4,203	—	4,203	—	—	4,203

(注) のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				全社・消去	合計
	飲食事業	ブライダル事業	レジャー事業	計		
当期末残高	2,801	—	—	2,801	—	2,801

(注) のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
1株当たり純資産額	145円03銭	121円20銭
1株当たり当期純利益又は当期純損失(△)	11円12銭	△24円16銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	10円79銭	—

(注) 1. 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失(△) (千円)	78,995	△172,203
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失(△) (千円)	78,995	△172,203
普通株式の期中平均株式数(株)	7,104,273	7,127,997
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	218,145	—
(うち新株予約権(株))	218,145	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。